

## 実践報告

## 札幌市立平岸西小学校

### (1) 研究内容

研究課題：「サッポロピリカコタン」の活用とアイヌ民族の方を招いて行う体験的学習に関する研究  
○アイヌの人たちとの交流を通してアイヌ民族の歴史・文化、現状を知る中で、人権の大切さについて考えよう！

### (2) 実践の内容

#### 【実践①】4学年 社会科「『サッポロピリカコタン』での活動」(9月2日)

##### ○ ねらい

アイヌ民族の文化や歴史に触れ、交流・体験を通して関心を高める

##### ○ 学習内容

事前学習として、「わたしたちの札幌」と萱野茂さんの「アイヌ ネノアン アイヌ」などを読み、質問したこと、調べたいことなどをまとめた上で、当日の活動に参加した。ピリカコタンでは、①講話・舞踊・楽器等の公演②アイヌ古式舞踊体験③昔のアイヌの子どもの遊び体験④屋内展示物の解説⑤屋外展示自由見学⑥質問コーナーなどを体験した。

ピリカコタンでお世話になった皆さんに後日手紙を書き、今回の活動を通して学んだことを伝えた。子どもたちは、体験活動を通して、アイヌ民族の歴史・文化への関心を高めることができた。



#### 【実践②】4学年 総合的な学習の時間「アイヌ文様の刺繍家 小川早苗さん から学ぶ」(10月4日)

##### ○ ねらい

アイヌの方との交流を通して、アイヌ民族の文化や歴史、現在の暮らし、差別について知る中で、アイヌ民族の問題を自分に引きよせて考え、人権意識を高める。

##### ○ 学習の様子

財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構の「アイヌ文化活動アドバイザー」の派遣により、アイヌ文様の刺繍家 小川早苗さんにゲストティーチャーをお願いした。

当日は、小川さんにアイヌの文化やアイヌ文様の切り絵の作り方を教えていただいた。小川さんは、「アイヌは、自然や生活のあらゆるものに神がやどると考え、普段の生活用具にも魔除けとしておまじないの文様を施した」など、アイヌ文様の意味を教えてくださいました。子どもは、実際にアイヌ文様の切り絵を作ることで、自然への深い畏敬と感謝の念をもちながら暮らしてきたアイヌの人々の文化を深く知ることができた。また、小川さんのお手伝いいらした大久保フヨさんにアイヌの昔話や歌を教えてくださいいただき、熱心に聞き入っていた。

最後に、小川さんに質問をした。「和人にいやな思いをさせられたことはありますか」と聞くと、小川さんはためらいながらも、子どもの頃のいじめられた体験を話してくださいました。子どもは、小川さんの話から民族差別の実態を知り、アイヌ民族をめぐる問題を自分に関係のある問題として捉えていた。



### 【実践③】4 学年 総合的な学習の時間「アイヌ文化継承者 小川基さんから学ぶ」(10月～11月)

#### ○ねらい

アイヌ文化継承者の小川さんからアイヌ民族の音楽、舞踊を学ぶ中で、アイヌ民族の精神文化を知り、アイヌ文化に親しむ。

#### ○学習の様子

財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構の「アイヌ文化活動アドバイザー」の派遣を申請し、トンコリやムックリの演奏、切り絵制作などを通してアイヌ文化を伝えている小川基（ToyToy）さんにゲストティーチャーをお願いした。パートナーの小川志保さんとともに本校に来ていただき、総合的な学習の時間に、トンコリ、ムックリ、ウポポ（唄）とリムセ（踊り）を通して、アイヌ民族の精神文化について教えていただいた。

ToyToyさんは、「トンコリは体にくっつけて演奏し、心臓で音色を聞く」「ウポポを歌うことでみんなの気持ちがとけ合って、リムセを踊りたくなっていく」など、子どもたちに分かりやすい言葉で語りかけ、丁寧に教えてくださった。「子どもの頃、おばあちゃんの上で教えてもらった切り絵、歌、昔話を、直接、人から人に伝えていきたい」と、つながることの大切さを熱く語る ToyToyさんに、子どもたちは強い感銘を受けた様子だった。

中でも、ToyToyさんのムックリに感動し、自分も演奏してみたいとムックリを購入する子もいた。市教委からムックリを全員分借りた。子どもは、ToyToyさん、志保さんから学んだことを学習発表会で発表したいと、きつねの踊りやムックリを懸命に練習していた。「ToyToyさんのアルバムの曲を劇の効果音に使いたい」など、ToyToyさんとの出会いにより、カムイユカラの劇づくりへの思いを膨らませていった。



### 【実践④】行事「学習発表会（11月19日）の劇『森を救ったカムイの子』の取組」(11月)

#### ○ねらい

総合的な学習の時間で学習してきたことを生かしながら、カムイユカラの劇づくりをする中で、自然と共に生きてきたアイヌ民族の精神文化を知るとともに、仲間と協力合って活動する楽しさを味わう。

#### ○学習内容と成果

学習発表会は、これまで学んできたアイヌ民族の学習を生かした発表にしたいと考え、知里幸恵「アイヌ神謡集」の11番目のカムイユカラをもとに、子どもたちが分担してシナリオを書き、創作劇に取り組むことにした。劇には、ピリカコタンで教えていただいたアイヌの人たちの昔遊びの輪投げや大なわ跳びを取り入れた。ToyToyさんに教えていただいたキツネの踊りは、オープニングで踊り、有志によるムックリの演奏も行うことにした。オキクルミの家は、小川早苗さんに教えていただいたアイヌ文様の切り絵で飾った。



児童観覧日には、小川基さん、志保さんが、保護者観覧日には、小川早苗さん、大久保フヨさんが駆けつけてくださった。当日、子どもはこれまでの練習の成果を見事発揮し、保護者からも拍手喝采を受けた。反省会では、子どもから、「家の人にアイヌ民族のことが伝わったと思うので、カムイユカラの劇をしてよかった！」という声上がり、彼らなりにアイヌ文化を広めるという目的意識をもって劇づくりに取り組んでいたことが分かった。



### 【実践⑤】総合的な学習の時間『アイヌ民族 Book 作り』の取組(12月)

#### ○ねらい

学習活動の最後にアイヌの人たちとの出会いや、活動を通して学んだことを「アイヌ民族 Book」としてまとめる中で、アイヌの歴史や文化などを、多くの人に伝えることの意義に気付く。

#### ○学習の様子

これまでのアイヌ民族に関する学習で学んだことを各自「アイヌ民族 Book」にまとめた。その際、資料集「アイヌ民族:歴史と現在～未来を共に生きるために～」(アイヌ文化振興・研究推進機構)を使った。子どもたちは、アイヌ文化を自分の周りの人達に伝えようと、懸命に「アイヌ民族 Book」づくりに励んでいた。学んだことをまとめることで、さらに学習が深まっていった。

### (3) 研究のまとめ

#### ① 成果

- 子どもは、アイヌ文化やアイヌの人たちと直接触れ合うことで、アイヌ民族の文化の素晴らしさを知るとともに、「日本に、アイヌ語という独自の言語をもつ民族が先住していたこと」「アイヌ民族は、今もアットゥシ織りの着物を着て、チセで暮らしているわけではない」ことなどを理解することができた。また、アイヌの人たちがこれまでどんな思いを抱いて暮らしてきたかを知ること、人権の大切さや、身の回りの差別・いじめについて考えることができた。さらに、アイヌ民族の人権回復のために、多くの人が現在も努力を続けているということを知ることができた。
- アイヌ文化継承者の小川基さん、志保さんの御協力もあり、子どものアイヌ文化への興味や劇に対する意欲が、日を追うごとに強まっていった。子どもは、アイヌ文化を広めるために劇をするのだという目的意識をもって、劇の発表に取り組むことができた。

#### ② 課題

- 今後は、「アイヌの人たちの人権が守られる社会は、自分たちも含めみんなが尊重される社会となる」という人権への理解がさらに深まっていくよう、学習を進めていく必要がある。

#### ③ 提言「人権教育のすすめ」

- 子どものアイヌ民族への理解を深めるには、ピリカコタンを活用するとともに、アイヌ文化アドバイザーなどアイヌ民族の方と直接関わることが大切である。
- アイヌの人たちがこれまでどんな思いを抱いて暮らしてきたかを知るとは、人権の大切さや、身の回りの差別・いじめについて考えることができる。
- 市教委ではムックリや弓矢、輪投げなどの貸し出しを行っているので、活用してほしい。